

## 第5回富良野市総合計画・総合戦略有識者会議 議事録

- 開催日時 令和2年11月2日(月) 午後2時00分～午後6時00分
- 開催場所 富良野文化会館 大会議室
- 出席者 <委員>北会長、荒木委員、菊地委員、松村委員、山崎省委員、倉西委員  
藤田委員、吉本委員、平間委員、小玉委員、遠藤委員、吉中委員  
飯沼委員、黒木委員、山崎留委員、岩井委員 (計16名)  
※欠席委員 石川委員、加茂委員、柿崎委員、林委員 (計4名)  
<事務局>稲葉総務部長、山下市民生活部長、柿本保健福祉部長  
川上経済部長、小野建設水道部長、亀淵教育部長  
藤野財政課長、関澤企画振興課長、入交企画振興係長  
<受託事業者>フラノデザイン(株) 大曾根、原田

### 1. 開会(午後2時00分)

- ・事務局より、欠席者について報告

### 2. 市長挨拶

- ・総合計画基本構想原案については、開催中の地域懇談会でも情報共有させていただき、好評を得ており、ご理解をいただいているところである。
- ・地域懇談会の意見交換の際に、デジタル化に向けた光回線の話があるが、事前加入の申込状況については、目標数をクリアしておりNTT東日本による事業が実施に向けて動き出し、光回線整備が様々な住民サービスにつながっていくことと思います。
- ・富良野から若い人が他市町村に職を求め出ていくが、帰って来られる環境が必要ではないかというご意見があるが、基本構想原案のまちづくりメッセージの中に「ひとりが輝く。つながることでさらに輝く。輪になることで輝きつづける」とあり、故郷とのつながりの大切さと捉えることもできるのではないかと。
- ・10年後の将来に向けて住みやすく、誇れる町となるよう議論の程よろしく申し上げます。

※以降は、設置条例第5条に基づき、北会長が進行。

### 3. 報告事項

- ・事務局より、総合計画基本構想原案のパブリックコメント実施結果について報告

### 4. 議題

#### 【北会長】

- ・議事に移りますが、有識者会議は、フラノデザイン株式会社にコーディネートをお願いしておりますので、よろしくお願いいたします。

#### (1) 総合計画に係る重点施策(総合戦略)について

##### 【フラノデザイン 大曾根】

- ・本日の構成ですが、人口ビジョンの方向性と重点施策の検討で進めていきたいと思えます。

#### ◆人口ビジョンの方向性

##### 【フラノデザイン 大曾根】

- ・人口ビジョンの方向性については、現在、道総研と進めているところです。
- ・道総研の分析では、人口推計は社人研推計より住基台帳による出生率、移動率の方が下振れしている状況にある。5歳階級別転出入の実態も旭川圏へは30・40代が転出超過し、札幌圏へは進学等で転出超過となっている。
- ・現在の考え方としては、下振れしている人口を上げていく方向で検討しているが、目安として社人研推計となるか詰めているところである。
- ・出生率は維持しながら、社会移動の転出超過を抑制するため、出ていく人を食い止め、入ってくる人を増やす必要があり、20・30・40代の社会移動率をどう設定していくかを考えているところである。
- ・人口を増やしていくことはビジョンでは描きにくいので、関係人口や交流人口の増加が施策として重要になってくる。

【荒木委員】

- ・人口ビジョンは行政の基本となるので、しっかり作ってもらいたい。
- ・北海道統計課で住基台帳と社人研予測の比較で、人口の総数と0～4歳階級の差異が示されている。各種施策に取り組み、人口減少予測を改善した市町村もある。0～4歳階級については、全道的に厳しいが頑張っているところもある。
- ・今後の人口を考えると、社人研の将来予測に近付けるのは不可能である。
- ・人口ビジョンも無理のない形で、必ず達成する数値目標を設定し、各種施策を実施していく必要がある。
- ・人口の目標値として、年代毎に設定した方が行政として施策が作りやすいのではないか。出生数や20～39歳女性数も別途考える必要があるのではないか。
- ・もし可能であるなら移住者数も目標値も設定してはどうか。

【黒木委員】

- ・若い世代にポイントをあてて考えてほしい。
- ・農村地域の人口のことも考えてほしい。

【吉中委員】

- ・人口も需給バランスで成り立っていると思う。需要があれば人が集まり、外にも出ていかないのではないか。
- ・関係人口をうまく活用できる方法を考えていかないといけない。
- ・産業が無いと人が集まらないので、新しい産業や育てられる産業を考えていかないといけない。

【荒木委員】

- ・富良野は離婚率が高く、母子家庭の移動が多いので、ひとり親にも優しい町の観点もあると思う。

◆重点施策の検討

【フラノデザイン 大曾根】

- ・次に重点施策の検討についてです。事前に資料を送付させていただいているので、パートを分けながらディスカッションできればと考えています。
- ・補足資料の考え方ですが、好循環ループ図は、システム思考と呼ばれるもので要素やつながりで作用し合っていていくものです。ライフステージシートは、要素となるものが主にどの世代や対象に向けたものかを表したものです。

①重点施策 基本①

【フラノデザイン 大曾根】

- ・重点施策の基本の1つ目「アイデアが生まれ、形になる仕組みづくり」についてご意見等をいただきたいと思います。

【松村委員】

- ・アイデアを生み出すことは大事であるが、実際に具現化されないと駄目である。
- ・アイデアを具現化する仕組みが必要であるが、行政には限界がある。民間のグループなどを組成して、市が支援したり、市民からの応援を募ったり、自立していく仕組みを考えていくべきである。

【荒木委員】

- ・アイデアが具現化されないと、何のための共創なのか、実行が担保されないといけない。
- ・アイデアが取り入れられない理由を、明確に説明することも大事である。
- ・テーマ別のワークショップは、これまでやったことはないので、関係者やオンライン参加も含めて色々なことができるのではないか。
- ・ワーケーションとして、コワーキングスペースやシェアオフィスをどのように整備するか。整備は行政資産を活用し、運営を民間に任せる方法もある。
- ・ワークショップも、ふるさと納税、移住者、テレワーク利用者、アクティビティ、女性や子育て世代など色々な形のもので、市民に限らず多くの人に参加することによって、今後の移住にもつながっていくのではないか。

【黒木委員】

- ・ワークショップや各種会議について、参加しやすい人とそうでない人がいるので、参加しやすい工夫や参加者のバランスを考える必要がある。

【山崎留委員】

- ・地域毎に聴き取りをしたり、意見をまとめたり、それを持ち寄る仕組みがあると良いのではないか。
- ・課題等に対し、他地域の人がどう思っているのか知りたい。

【飯沼委員】

- ・課題がわかっているのに、どう拾い上げて、どう解決していくかが欠落している。
- ・計画を作った後、結果の情報共有が進んでいない。
- ・情報を取りに行こうとすることが少ないと感じるので、情報に対する感度や循環する仕組みなどを考えていく必要がある。
- ・情報の収集、分析し、施策に活かすことをスピーディに取り組むことが大事である。

【松村委員】

- ・今回の総合計画策定でフラノデザインの役割は大きい。行政が大手コンサルではなく、地元企業と取り組んでいることに意味がある。例えば、若い人で富良野を良くしたいと思う人がコーディネーター側に入り、フラノデザインをサポートする役割を担うと沢山の情報を得られることになる。高校生がインターシップで入るのもクリエイティブな思考が身に付くのではないか。
- ・住民が参加する側から運営する側にシフトするのも1つではないか。

【吉中委員】

- ・既存のままでは難しいので、どのように新しいアイデアを募集するかが大事である。
- ・小中高生もアイデアや夢を持っていると思うので、それを吸い上げる場所を作ってあげることで、まちづくりへの参加意識も高まるのではないか。
- ・前例がなく二の足を踏むことが多いので、思い切ったことができるシステムなどが必要ではないか。
- ・新しい考え方に最初から駄目ではなく、具現化に向けて考えてあげられる場所や人が必要ではないか。

②重点施策 基本②

【フラノデザイン 大曾根】

- ・重点施策の基本の2つ目「デジタル利活用による行政サービスの向上」についてご意見等をいただきたいと思います。

【遠藤委員】

- ・市役所の情報の横断的な共有について、市民のアイデアの具現化で子ども未来づくりフォーラムがあるがアイデアを出すだけで終わっている気がするので、それらを活かすためにも、担当課の情報に留まらず、市役所全体に情報共有できるようにすべきである。

【飯沼委員】

- ・スマートシティ戦略室や光回線整備などデジタル化に向けた前向きな取組は頼もしいが、過去にもデジタル化の話があったが実行されなかった。
- ・5から10年先の未来を考え、担当セクションには感度のいい人を配置しアンテナを張っていてほしいし、市民全体を巻き込んで進めてほしい。

【吉中委員】

- ・新しいアイデアを「まずはやってみよう」と具現化できる市職員の動きがあると良い。若い職員にやらせてあげる環境が必要であり、失敗を恐れないで人とアイデアを育てることが必要である。

【吉本委員】

- ・デジタル利活用の課題は時間とお金があれば解決できるのではないか。

- ・デジタル化のめざすところは、データのメタ分析を活用できる環境ではないか。
- ・課題から仮説を立てたとき、誰がやるのかが重要であり、リーダーを育成していく必要があるのではないか。

【荒木委員】

- ・デジタルは必要なツールであるが、重点施策に入れるには違和感がある。
- ・市民向けのデジタル化は、小さな町においてデジタルで具体的に何をしていくのか、スマートシティに向けて具体的に何を進めていくのか、提示してほしい。
- ・市役所内のデジタル化は、業務の生産性向上はRPAを進めることができる。情報の横断的共有は、ホームページにアップしたから情報共有ではないので、必要な情報が伝わる司令系統がしっかりしていなければならない。
- ・行政の「まずはやってみよう」に必要なのは、やっても評価される仕組みになっていない。人事考課制度を活用し、市民のためになっているか、結果を出したら評価される仕組みが必要である。
- ・行政職員からリーダーシップを発揮できる環境を作り、それを民間につなげていく必要がある。

【松村委員】

- ・デジタルの功罪を見極める必要がある。
- ・デジタル化の罪は、不特定多数のビックデータには良いが、地方ではデジタル化が顔の見えるつながりを薄くする恐れがある。
- ・顔の見えるつながりを強めるようなデジタル化を考える必要がある。
- ・行政には持っているデータがたくさんあるので、仮説をオーサライズし確かめる価値があるかを見極めていく必要がある。

【荒木委員】

- ・データ分析は幅広いので、何のために何をするのかでデータを見る必要がある。
- ・行政は必要なデータをどれだけ出せるのかが必要になってくる。
- ・市役所決裁のオンライン化をバックデータとの紐付けを図りながら進めてほしい。

【菊池委員】

- ・デジタル化は省人化のイメージが強く、人口減少により働く場が確保されるか大きな要因となるのではないか。
- ・デジタル化は民間も進めていくべき、一方でデジタル化によって省力化できた部分は新たな事業を掘り起こしていく必要がある。
- ・転出する人の傾向や年齢、想いや意見などの要因をデータ分析することにより、デジタルの有効活用が図れるのではないか。

【黒木委員】

- ・デジタルは当然の流れであり、重点施策に入れる必要はあるのか。富良野独自の施策となり得るのか。
- ・デジタル化を進める上では、高齢者や苦手な方などに丁寧な説明が必要ではないか。

【荒木委員】

- ・デジタル化は進めないといけない。市職員の事業の実効性を高めるためにもデジタル化は必要である。
- ・重点施策の順番としては、全体的なものがあり、次に共創、最後がデジタルではないか。

③重点施策 原資①

【フラノデザイン 大曾根】

- ・重点施策の原資として「未来への投資原資を確保し続ける」についてご意見等をいただきたいと思います。

【黒木委員】

- ・ふるさと納税が富良野ブランドを活かしきれていない。他市町村と比べ低い要因は何かを考え、対策が必要ではないか。

【松村委員】

- ・未来への投資原資の確保は極めて重要である。
- ・ふるさと納税は本来の趣旨とは違うものとなっているので、地域の人などが自分たちでお金を出す発想になっていかなければいけないのではないか。
- ・目的に対する寄付であれば自分事になるが、税金では他人事になってしまうので、原資稼ぐ方法について検討してみてもどうか。

【荒木委員】

- ・人口が減ると市民税は減少するが、激変緩和措置で国の交付金が担保される。
- ・人口減少（人口想定）による財政シミュレーションの情報をオープンにする必要がある。
- ・ふるさと納税は全額収入になるが、業者手数料や返礼品の経費が掛かる。返礼品をモノからコトにする必要があり、自由に富良野の魅力を発信できることで推進する必要がある。
- ・企業版ふるさと納税は、目的が明確になっていないと駄目である。アイデアをいかに出せるか。
- ・市内ファンドの制度を官民一体となってやる方法はあるのではないか。

④重点施策 ひと①

【フラノデザイン 大曾根】

- ・重点施策のひとのWA!の1つ目「富良野につながっている人が増える仕組みづくり」についてご意見等をいただきたいと思います。

【藤田委員】

- ・東京ふらの会を利用したり、他の地域でもふらの会を組織し、交流して行くのも1つの方法ではないか。

【荒木委員】

- ・東京ふらの会は、富良野に住んでいた人だけではなく、富良野が大好きな人も参加できるようになっている。

【松村委員】

- ・マインドの問題ではあるが、出身者に奨学金を戻ってきたらチャラにする施策は、気持ちの良いものではない気がする
- ・富良野に住んで、育て、出ていく人を気持ちよく送り出すマインドが、関係人口につながっていくのではないか。

【吉中委員】

- ・富良野の魅力を活かした、富良野に特化したサテライトをつくる動きが関係人口を増やすのではないか。

【荒木委員】

- ・富良野のフィールドを活用した大学のゼミや研究室などとの連携ができないか。
- ・今、富良野に住んでいる人がつながっているのか、その項目が必要ではないか。
- ・一生懸命頑張っている人を応援する、富良野に来たい人を来やすくする仕組みが必要である。
- ・シェアオフィスやコワーキングスペースを整備して、テレワークなどにより、情報を発信してくれる人をどれだけ増やすことができるか。

【山崎留委員】

- ・ファンクラブとして、北の国からのコアなファンはいると思うので、まとめるような動きがあってもいいのではないか。
- ・ヘソ丸君より、もう少しかわいいゆるキャラがあってもいいのではないか。

【藤田委員】

- ・ワーケーションの可能性として、市民として実感値はないが空港から1時間で来られるのは魅力ではないか。

## ⑤重点施策 ひと②

### 【フラノデザイン 大曽根】

- ・重点施策のひとのWA!の2つ目「富良野ならではの子育て環境づくり」についてご意見等をいただきたいと思います。

### 【飯沼委員】

- ・富良野は子育てに冷たいと感じる。書かれていることは、めざすのではなく、既にやっていないとおかしい。
- ・生まれたその瞬間からサポートが必要であるが、この町で子育てしたいと思う人が少ない。
- ・産婦人科、小児科の充実も具体的にどうするのか。
- ・富良野に行くと「子育てしやすい」「生活しやすい」の口コミが広がっていくような取組になってほしい。
- ・具体的な取組をいつまでにやるかを明示する必要がある。

### 【黒木委員】

- ・ハード面だけではなく、ソフトとして特に父親（男性）の意識改革が必要ではないか。例えば、市役所の中だけでも男性の育休を義務付けるなど富良野は違うと思わせるものが必要ではないか。

### 【吉中委員】

- ・ここに書かれていることは、やって当たり前であってほしい。
- ・保育所適正配置の話し合いや地域懇談会でも出されていたが、へき地保育所の預かり時間が冬は短くなり、働く時間との整合性がとれていない。
- ・へき地保育所の給食支援などハードルを下げることで、保護者の負担軽減が出生数につながることもあるかもしれない。
- ・東川町などの「君の椅子プロジェクト」があるが、地域が子どもの誕生を喜んでいいる取り組みも1つの方法ではないか。

### 【松村委員】

- ・「ならでは」とは何かを考えたとき、富良野市は富良野圏域の親方的位置づけであるべきではないか。富良野市は、産婦人科や小児科を絶対に無くさないことが、医療費の無償化より優先順位が高いのではないか。
- ・子育ては人を育てることである。多くの市町村では出産祝金としてお金を渡しているが、東川町は「君の椅子プロジェクト」を実施している。こうした取組が転入者の選択をしている。

### 【山崎留委員】

- ・市街地の保育所とへき地保育所では預かり時間や給食で格差がある。改善されれば、出産や移住にもつながる部分もあるのではないか。
- ・屋内の遊び場は、耐震化の問題はあるが空き学校を活用する方法もあるのではないか。

### 【飯沼委員】

- ・子育ての問題もアイデアを出し合って形にしていく必要があるのではないか。

### 【荒木委員】

- ・総合戦略策定時の若年層アンケートで子どもを産めない、産まない理由として経済的理由が最も多く、そこを担保しなかったことが今につながっている。
- ・東川町は医療費が15歳まで無償のベースがあるので、違う取り組みも生きてくる。
- ・他の市町村並みの取り組みがあって、ソフト面のプラスをいかに伝えていけるかが必要である。

## ⑥重点施策 ひと③

### 【フラノデザイン 大曽根】

- ・重点施策のひとのWA!の3つ目「郷土愛につながる富良野ならではの教育の推進」についてご意見等をいただきたいと思います。

【松村委員】

- ・郷土愛については、大人が大事である。
- ・家庭の中で富良野の良さを伝えているか、当たり前良さに気付いているか、大人の教育が重要である。

【黒木委員】

- ・演劇をもっと教育活動に活用できないか。
- ・演劇には、コミュニケーションスキル、自分の見え方、人への伝え方など色々な教育の要素が詰まっているので、演劇を通じた教育は魅力になるのではないか。

【岩井委員】

- ・「富良野ならでは」は、アウトドア資源や演劇など多方面にわたる。「ならでは」を具体的に考えるために、アンケートなどで声を集めることも大事ではないか。

【藤田委員】

- ・演劇工場を中心に、田舎にいながら超一流の文化に触れられることは特色の1つではないか。

【荒木委員】

- ・若い世代が富良野を知らない。いいイメージをどれだけ出せるか、発信できるか。それによって、子どもたちの愛着、誇りも変わってくるのではないか。
- ・産業界からの視点で観光は産業となっており、教育として観光を実体験できることは「富良野ならでは」ないか。

【吉本委員】

- ・教育は何のためと考えたとき、自分自身が自立するため、得たいものを勝ち取るためではないか。
- ・未来予測でいい情報がない中で、どうやって生きていくのか、どうやって自立していくのかによって、強い子どもや社会人につながっていくのではないか。

【吉中委員】

- ・演劇が1つの産業になっているのは、富良野市の大きな柱になり得るのではないか。
- ・野球の独立リーグは、富良野から生まれた中で、先に取り組んだことでイニシアティブをとることができ、産業としての活用やスポーツを通じた教育にもつながっていくのではないか。

【荒木委員】

- ・教育は、子どもたちが自立して幸せを感じて生活をするために、何をすべきなのかだと思う。子どもたち自身が未来を明るくしていくためには、読解力と論理力が重要となる。

⑦重点施策 ひと④

【フラノデザイン 大曾根】

- ・重点施策のひとのWA!の4つ目「いつまでも健康で自立できる心と体づくり」についてご意見等をいただきたいと思います。

【松村委員】

- ・書かれていることには賛成だが、富良野に住み続けられる、富良野で死ねることが価値となるので、そういったこともめざす状態に入れてもいいのではないか。

【荒木委員】

- ・全体医療費を削減できれば個人負担が減ることになるので、個人の消費につながる効果があるのではないか。
- ・行政が何らかのきっかけづくり、市民や地域を巻き込む仕組みが必要ではないか。

【飯沼委員】

- ・健康寿命を延ばすためには、何らかのきっかけが必要である。

【山崎留委員】

- ・健幸都市を前面に表現し、活用してはどうか。データと連動させた中で、市民も観光客も健康になる取組を実施してはどうか。

⑧重点施策 しごと①

【フラノデザイン 大曽根】

- ・重点施策のしごとのWA!の1つ目「新たなチャレンジを応援する」についてご意見等をいただきたいと思います。

【吉中委員】

- ・新規就農のハードルが高く、簡単にやらせてもらえない。仕組みや取り組みを改善し、自由度をあげないと入って来ない。柔軟で寄り添った体制が必要である。

【黒木委員】

- ・新規就農の目的は就農者を増やすこと、手段としての条件であるはずが、目的と手段が変わっている気がする。
- ・就農した際に、受け入れる側である地域や行政の雰囲気作りも大事ではないか。

【松村委員】

- ・空き店舗に住民が何をしてほしいかという情報を発信し、募集する方法もある。起業する側は応援団がいる状態からスタートすることができ、リスクを回避することができる。
- ・富良野は農業を大切にしていける必要があるので、集落機能を維持していかなければいけない。

【荒木委員】

- ・商工会議所で新規創業のフォーラムをすると、市外からの参加者も多い。富良野で商売をやりたい人が多いのは、元気そうな雰囲気を出しているからではないか。
- ・起業する人はリスクの観点が大きいので、ランニングのサポートがあると安心できる。商工会議所としては、引き続き徹底的に支援する形で進めている。

【岩井委員】

- ・失敗や挫折時のサポート、相談できる環境を準備段階から整えておくと、チャレンジしやすくなるのではないか。

⑨重点施策 しごと②

【フラノデザイン 大曽根】

- ・重点施策のしごとのWA!の2つ目「地域内産業の付加価値を高め、稼ぐ力を強化する」についてご意見等をいただきたいと思います。

【松村委員】

- ・富良野は農業を大切にしていける必要があるので、集落機能を維持していかなければいけない。

【黒木委員】

- ・移住者で感じている人も多いと思うが、富良野は素材があるのに発信が弱い。
- ・メイドインフラノ事業もまだ広まっていないので、発信するすべがもっとあるのではないか。

【荒木委員】

- ・まちづくり会社の中に物産観光公社があるが、昔が東京などの物産展に出店していたが赤字でやめた経過がある。一私企業が仕入れ商品の中で行うには限界がある。
- ・今の産業でやれることはまだまだある気がする。マルシェで売っている商品は富良野の素材のものとしているが、製造は市外である。何らかの形で、共同で工場が運営できる可能性はあるのではないか。
- ・体験型コンテンツは、富良野独自のものが必要であり、企画をするために専門家を入れたワークショップを実施するのが良いのではないか。
- ・消費単価の高い人には、満足度の高いものを提供していく必要がある。



- ・既存産業に関わる人が圧倒的に多いので、既存産業の利益をどう上げていくか考えていく必要がある。

#### ⑩重点施策 まち①

##### 【フラノデザイン 大曾根】

- ・重点施策のまちのWA!の「マッチングを通じた新たな価値を創造する」についてご意見等をいただきたいと思います。

##### 【荒木委員】

- ・富良野にいる人たちのつながりを明記した方が良いのではないかな。
- ・住民というキーワードが必要ではないかな。

##### 【黒木委員】

- ・前に提案した農家体験型アミューズメント施設は行政でやることではないが、一農家だけでも難しい部分もあるので、市民ファンドなどで夢が実現することもあるのではないかな。

##### 【山崎留委員】

- ・個人が持っている技術や資格などを登録制にして、マッチングできる仕組みがあると良いのではないかな。

##### 【飯沼委員】

- ・色々なマッチングがあるが、行政におんぶにだっこでは厳しいと感じる。
- ・時間や能力のある人たちのパワーを活用するにはマッチングが大事になってくる。
- ・マッチングは、誰かが旗を振ってくれないと難しいこともあるが、人材活用の観点からも重要である。

##### 【吉中委員】

- ・何をどうしたらいいかわからない人がたくさんいる気がする。
- ・市役所の中に「すぐやる課」みたいな部署があれば、たらい回しにされず、つないでくれる状態になるのではないかな。

##### 【荒木委員】

- ・それぞれの経験をどう活かすのかの効果は大きい。
- ・行政がコーディネーターの仕組みを作り、その後、民間につないでいくのが良いのではないかな。

##### 【黒木委員】

- ・インターンシップの制度をもっと広めてはどうか。色々な体験が富良野に残ることにもつながるのではないかな。

##### 【荒木委員】

- ・インターンシップを中学からできないか。自立した時のことを早くからイメージできる体験が必要ではないかな。

#### ⑪重点施策 自然①

##### 【フラノデザイン 大曾根】

- ・重点施策の自然のWA!の「豊かな自然環境を100年後につなぐ」についてご意見等をいただきたいと思います。

##### 【黒木委員】

- ・美しい自然の定義を明確にする必要があるのではないかな。
- ・農地景観も農業者の存在が前提となってくるのではないかな。

##### 【山崎留委員】

- ・富良野がゴミ分別の先進地であるので、SDGs とからめ、リサイクルのまち、美しい町をPRしてはどうか。

【荒木委員】

- ・自然環境をつなぐだけでなく、利活用していくことが重要ではないか。
- ・自然環境の整備、保全し、新たな魅力につなげていく必要がある。

【吉本委員】

- ・開発と自然との調和をどう図っていくか。利活用や保護、管理などの内容も必要ではないか。

【吉中委員】

- ・自然を守る観点から、何を守り、何と調和を図っていくのか。
- ・農業後継者が減っている状況で、どう農地を守っていくのか。
- ・地域に人が住むことで、自然環境を守っていくことができるのではないか。
- ・東大演習林の活用も必要ではないか。

⑫重点施策 全体①

【フラノデザイン 大曾根】

- ・重点施策の全体指標の「すべては市民の幸せのために」についてご意見等をいただきたいと思います。

【荒木委員】

- ・この全体指標が重点施策の1番最初に来るべきではないか。
- ・幸福度は、ファジーだが重要だと思う。
- ・幸福度は、市民トータルではなく、階層や年齢などで集計、分析し、施策の検討につなげていく必要がある。

【吉中委員】

- ・「すべては市民の幸せのために」が最初の目的であるべき。
- ・富良野で生まれて、死んでいく、富良野で自己完結できることが幸福度の1つではないか。

【フラノデザイン 大曾根】

- ・全体を通して、意見等をいただきたいと思います。

【山崎省委員】

- ・学校現場ではデジタル化が進められているが、活用するためには教員の研修も必要となってくる。
- ・学校の授業時数も増え、学校に求められるものが増えているが、重点的ではなくバランスよく取り組んでいかななくてはならない。
- ・様々なことを学校現場だけで対応するのは難しくなっている。学校現場の状況理解と市民のサポートが必要となってくる。

【黒木委員】

- ・アイデアをすべて実行するのは難しく、財政的な課題もある。
- ・総合計画は、まちづくりに対するメリハリだと思うので、市民の理解が必要になってくる。

【荒木委員】

- ・人口ビジョンが課題になってくる。人口ビジョンを具体的に達成するための全体指標であり、4つのWA!であってほしい。
- ・行政がどう実行できるか。組織として職員が動きやすいように、施策が具体的に見えるようにしてほしい。
- ・新たな創業、新たな仲間を呼び込む形を実現してほしい。

【山崎留委員】

- ・アイデアをすべて実行するのは難しいと思うが、これまでの内容を文章化し、誰が実施するか（できるのか）の、すみ分けが必要ではないか。

【フラノデザイン 大曾根】

- ・貴重なご意見等ありがとうございました。
- ・次回、ご意見等を踏まえ、まとめたものを提案できればと考えております。

【北会長】

- ・本日の長時間に渡る進行ありがとうございました。

5. その他

- ・特になし

6. 今後の予定

- ・今後の有識者会議日程について事務局より説明

7. 閉会（午後6時00分）

【北会長】

- ・本日、数多くのご提案をいただき、個々に評価することにはなりません、基本構想原案のまちづくりメッセージの中に「輪がひろがっていくことで、予想もできない『わっ!』が起こるかも」とありますが、可能性や期待を感じる会議だったと感じております。
- ・今回の議論を次回につなげていただき、素晴らしい総合計画ができるようご協力をお願い致します。